

2021年第2回IEEE東京支部理事会 議事録

日 時： 2021年6月3日(木) 15:00～17:50

場 所： 住友電気工業株式会社 東京本社 ホール

出席者： 中野 Chair、小林 Vice Chair、重松 Secretary、前原 Treasurer

坂東 COC Chair、粕川 FNC Chair、横田 MD Chair、中村 NC Vice Chair、

菅野 TPC Vice Chair、津村 PC Chair、中村 SAC Chair、鈴木 HC Chair、

奥村理事、今井 LMAG Chair、Chaki YP Chair、稲森 WIE Chair、

徳田 Past Chair、滝嶋 Past Secretary、羽渕 Past Treasurer

オブザーバ： Japan Office 百武氏、Japan Office 梶川氏

事務局、幹事会社事務担当

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 【審議】 (資料 1)
2. 2021-22 東京支部理事会構成 (資料 2)
3. Japan Council 理事会(2021年第1回)報告 (資料 3)
4. 2021年中間会計報告 (資料 4)
5. 委員会活動報告 (資料 5)
 - ・ Chapter Operations Committee (資料なし)
 - ・ Fellow Nominations Committee (資料 5-2)
 - ・ Membership Development Committee (資料 5-3)
 - ・ Technical Program Committee (資料 5-4)
 - ・ Publications Committee (資料 5-5)
 - ・ Student Activities Committee (資料 5-6)
 - ・ History Committee (資料 5-7)
6. Affinity Group 活動報告 (資料 6)
 - ・ Life Member Affinity Group (資料 6-1)
 - ・ Young Professionals Affinity Group (資料 6-2)
 - ・ Women in Engineering (資料 6-3)
7. その他 (資料 7)
 - ・ SIGHT 報告 (資料 7-1)
 - ・ [参考] メール審議報告 (資料 7-2)
 - ・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧 (資料 7-3)

議事：

0. Chairのご挨拶

Chairより開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議→承認】 (資料1)

Secretaryより、前回理事会(2021年3月開催)の議事録について説明があり、異議なく承認された。

2. 2021-22 東京支部理事会構成 (資料2)

Secretaryより、2021-2022年の東京支部理事会構成メンバーが紹介された。Fellow Nominations Committeeにおいて、新たに森田逸郎氏のVC就任が提案され、承認された。

3. Japan Council 理事会(2021年第1回)報告 (資料3)

Secretaryから、議事録(案)に沿って報告があった。

COCは予算を増やすことは可能なのでオンラインミーティングの実施を呼びかけること、デジタルの日にちなんだイベントの検討についての紹介、SACはオンライン開催のSBLTWを企画していること、LRSCはハイグレード会員の増強と他学会の連携について議論がされたこと、Coordinatorの活動については、LMAGはHP改善および関西、名古屋、仙台、東京以外の支部への展開について検討していること、EAは新たにローカルグループを設立することが承認されたこと、の説明がされた。

4. 2021年中間会計報告 (資料4)

Treasurerから、報告があった。

本部からのSection Assessment受取が入金され、これをJCへ拋出し、JCからのSection Assessment還元が入金された。支出は主に総会運営費、メダル作成などの広告費等が挙げられ、事業運営費として計画されている。現状の支出は約20%の支出状況になる。

Past Secretaryから、予算の執行予定とそれに対する実績を執行率という形で掲載すると比較ができ、修正予算等を組む際の指標にもなるので掲載を検討してほしいとコメントがあった。

5. 委員会活動報告

(資料 5)

・ Chapter Operations Committee

(資料なし)

COC Chair から、前回の理事会から今回の理事会までの間で東京支部の COC で審議すべき案件がなく今回は資料なしとの説明があった。

・ Fellow Nominations Committee

(資料 5-2)

FNC Chair から報告があった。

各主要企業において窓口を決めシニア推薦を進める取り組みについては、各企業の中での IEEE 会員について台帳管理をしたうえで、メンバーの人、シニアメンバーになる人、フェローになる人の把握をして頂くよう依頼し、窓口の方からそのような管理を進めていくとの回答を得たので1年活動してみる。うまく機能するようであれば好事例として他への展開もあり得ると考えている。新規試みの部分については、電子情報通信学会が発表しているフェローのうちエレクトロニクスソサイエティの新規フェローに IEEE フェロー申請を依頼し、一部の方からトライしてみるとの回答を得た。JC の Webinar については推薦を書く要諦をよくご存じの方にレクチャをして頂くことを JC との連携で考えていきたい。

HC Chair から、電子情報通信学会の例は非常に面白いと思うので、電気学会でもこういった動きをして頂けると有難いと思うとコメントがあった。これに対し、FNC Chair から、電気学会のフェローの方が Web に載っていればそこから声をかけて進めたいとの回答があった。

・ Membership Development Committee

(資料 5-3)

MD Chair から、報告があった。

会員年数(5年,10年,20年,25年,30年,40年)に合わせたピンバッチの送付を終えた。そのうえで41年以上の会員から配布についての問い合わせがあったため、関係者で協議し41年以上の方にも追加で送付した。41年以上の方への発送も合わせると、送付合計は約1,200個となる。

Past Secretary から、以下のコメントがあった。

ピンバッチ送付のタイミングは、今年4月だったが、来年度以降は会員更新のタイミングも図ってもう少し早く発送をしたい。ピンバッチを受け取った人の感想、コメントなどを記載するなどメッセージを役立てていきたい。また、今回のピンバッチ送付の試みについて他の支部からも参考にしたいとの声が出ており、ピンバッチの裏には「IEEE JAPAN」と記載をしているので、特に問題はない。ただし、他支部に展開するときにはある程度方向性を整理、使用目的を明確にするなどしてピンバッチの価値が下がるようなことにならないようにしたい。今後の JC の理事会で東京支部からの他の支部で活用する際の提言ができれば良い。

Japan Office から、アメリカの本部では会員更新が 10 月に実施されるため、この時までに自動更新を迷う会員がいる。リマインドの機会があればその時期に 1 度確認してもらおうと良い、とコメントがあった。

Secretary から、ピンバッチの価値低下を避けるうえでも、他の目的で使う場合は JC や東京支部にまずは相談することを条件に始めること、Vice Chair から、本来の目的から逸脱したものは控えてもらうことが基本的なスタンスになる、とコメントがあった。

FNC Chair から、ワールドワイドに展開したいという話が来た際の対策を考えておくのはどうかとコメントがあった。

以上の議論を元に Secretary から、他支部からピンバッチ製作の要請があった場合は、現行の東京支部としてのコンセプトや方法を守ることを条件に、JC 理事会等で具体的方法を検討することを方針案とし、参加者の意向の確認をしたところ、異議がなかったため合意として決議した。

続いて、Past Secretary から、シニアメダルの展開について説明があった。

新しくシニア会員に昇格した人に記念のメダル贈呈を今年から JC 主導で各支部で実施をしている。41 名のうち 37 名の発送が完了しており、随時感想やコメントを頂いている。各支部の取組みの共有も含めて理事会で報告する予定なので、もう少し感想やコメントの数を集め、理事会へ報告していきたい。ピンバッチやメダルのような施策を浸透させ、会員継続の認知度を上げることも必要。このメダルを機にフェローの活動と連携させられると良い。

• Technical Program Committee

(資料 5-4)

TPC Vice Chair (代理) から説明があった。

2021 年の活動として、3 月 5 日第 1 回講演会に続き、第 2 回は総会のあとに機械振興会館で開催、講演会のあとパネルディスカッションを実施した。

第 3 回、第 4 回は確定している。第 3 回(6 月 9 日)は、200 名を超える登録がされている。第 5 回、第 6 回、第 7 回については、今後講演者にコンタクトを取って確定していく。

• Publications Committee

(資料 5-5)

PC Chair から説明があった。

Tokyo Bulletin は 4 月に 3 件発行。7 月以降の予定は資料に記しており、メダル、バッジ、TPC の講演会など入れていきたいので積極的な投稿頂きたい。R10 Newsletter については東京 LMAG、東京信越ジョイント WIE からの投稿、いずれもが R10 Newsletter の April エディションに掲載された。こちらも積極的に投稿頂きたい。ホ

ホームページ運営保守については、東京支部 LMAG のサイトの見え方などについて LMAG との協議に参加している。

Past Secretary から、YP でもホームページの再構築を検討しているので情報共有すると良いとのコメントがあった。

Secretary から、ホームページの改善については 5 件程度の要望が上がっており、交通整理と予算の把握をしたうえで、基本的には各コミッティ等にお任せする方向で検討しているとのコメントがあった。

・ Student Activities Committee (資料 5-6)

SAC Chair から説明があった。

電気通信大学の SB で YouTube でレポートの書き方講座を実施した。今後の予定として東京電機大学の SB にて勧誘会を 6 月下旬に開催予定、東京工業大学の SB ではオンラインで勉強会を行う予定になっている。また、IEEE TOWERS が 11 月 14 日にオンラインで開催を予定しており、Student Paper Contest についてはソウルセクション Chair に詳細を問い合わせ中である。

Past Secretary から、SB 計画書の提出状況について質問があり、SAC Chair から、前回理事会後に全ブランチに連絡を取り、そのうち 3 ブランチのみ返答があったこと、返答がなかったブランチに関しては、まだ Chair が決まっていないところもある。コロナ禍で対面で会うことが困難であることが主な原因で、今年は例年以上に引継ぎがうまくいってないブランチが多いと考えているとコメントがあった。

・ History Committee (資料 5-7)

HC Chair から説明があった。

マイルストーン 5 件の申請準備状況について。1 件目から 3 件目までの状況説明、新規に 4 件目と 5 件目を挙げており、4 件目は当初関西支部との共同提出を検討したが東京支部単独になる可能性もある。5 件目は会社のスケールが小さく、社内で調整しているところ。他支部の状況については、関西支部から 3 件、名古屋支部 2 件（うち 1 件インバーターエアコンについては 3 月に贈呈式実施済）、仙台支部 1 件。JC の HC は、昨年はコロナで対面開催できず、今年は福岡支部の方で 9 月開催を計画中。

8. Affinity Group 活動報告 (資料 6)

・ Life Member Affinity Group (資料 6-1)

LMAG Chair から、説明があった。

ホームページを充実させるべく PubCom と打合せをしたこと、これまでの行事を見

やすくページ内で整理したり、東京支部のトップページに LMAG ページのバナーリンクを貼ったりするなどの具体的な改善内容が挙げられた。今後の予定として見学会の実施検討、加えてイブニングサロンは対面形式で 8 月もしくは 9 月に開催を調整していること、国外活動については Achievement Award に申請した。また、R10 の LMAG Chair からライフメンバーの中でシニアメンバーになっていない人について積極的に昇格してもらうよう要請があり、ライフメンバーのみか東京支部と共同化して進めるのか思案中である。該当者は東京支部だけで 382 名。

Secretary から、シニアメンバーの件は MD Chair と情報を連携して進めていってほしいとコメントがあった。

・ Young Professionals Affinity Group

(資料 6-2)

(議事進行上、YP 及び関連する EA については順を会議の最後に移動して実施された) YP Chair から説明があった。

2 つのイベントを実施した。1 番目は、YP Radio。毎月 2 回、土曜日にメンバーの 2 人が人生、キャリアなど様々なことについて 30 分のトークを行うもので、順調に進行。様子を YP のプライベート YouTube にアップしている。2 番目は、「Tokyo YP 勉強会」(Tokyo YP Study Group)。現在、データサイエンス、ロボティクス、設計イラストと視覚化の 3 つについて実施。IEEE 非会員も登録可。3 番目として今後に向け、Tokyo YP アイデアコンテストの準備をしている。学生の夏休みを利用したもので、テーマは「国連の持続可能な開発目標 SDGs」。リストにある問題を解決できるアイデアを募集する。国内で推進し、世界各国の国際的なアイデアコンテストに推薦してゆきたい。昨年は Tokyo から 2 チームだけだったので今年はより多くのチームを派遣したいが、問題は、参加登録が非常に限られていること。他のアフィニティグループに協力を呼び掛けている。Tokyo YP では、新しい Web サイトの立ち上げを準備している。現状では、情報の古さやレイアウトなどについて課題があり、広く人々にアプローチするのに課題がある。

Secretary から、Web サイトについては業者との議論を予定しているとコメントがあった。

YP Chair から、本当のターゲットは高校生などであり、スーパーサイエンスハイスクールには、Japan Office の支援により情報が届いているとの説明があった。

Japan Office から、小中高生へのチャンネルがないのが課題。エンジニアリングスポットライトで案内をしてきたスーパーサイエンスハイスクール 127 校くらいに案内チラシを送っているほか、WIE が応援団体登録をしている「内閣府男女共同参画局 理工チャレンジ (リコチャレ)」にもイベント掲載をしてもらっている、とコメントがあった。

FNC Chair から、高専の学生がこの趣旨に合えば、高専は各県にあるので、高専の全体を束ねる長から発信することも候補の一つかと思う、とコメントがあった。

続いて Secretary から、EA (Educational Activity) について説明があった。

6月1日に「東京支部 EA に関する意見収集会」が、21名の関係者の参加で開催された。EA は2020年、昨年に各支部に設置され、各支部内で EA 活動の方向性、議論を進め、年に1件程度イベント開催を目安として推進している。現在東京支部では、YP Chair が EA の代表者を兼ねているが、1名のみで活動の検討を行うのではなく、多くの方に参加頂いて意見を出し合ったという経緯である。

(以下、各発言を記載)

Chair から、教育は、大学生よりももっと若い人に対してが重要であり、学会が関与するのは流れだと思う。一方で高校、中学、小学校というのに出ていくには覚悟と労力とが必要であり、リソースとして問題意識がある。よって方向としてはやるべきであるが、容易ではないので体制構築が必要である、とのコメントがあった。

Vice Chair から、リソースを考えると非常に厳しい。今ある活動を EA 的にモディファイし、そういう要素を入れて東京支部として取りまとめていくことから始める。どのようなものが候補になるか、どう modification してゆくかについて議論し、各コミッティからも提案を頂く等をしていくしかないのではないか。JC の理事会では我々の意気込みや考え方をまず説明。具体的に何ができるかをしっかり考えないと、気合い・意識だけ空回りしても現実には非常に難しい、とのコメントがあった。

Past Secretary から、正式な組織、コミッティでなく検討チームと言う形で組むのであれば、どういう手順・スケジュールで進めるかの方針を検討するコアチームを組むというのはあり得る、とコメントがあった。

YP Chair から、YP のアイデアコンテストは、東京 EA との共催としたいとの提案があり、Secretary から参加者の意向確認をしたころ異議がなく、アイデアコンテストは EA の共催とすることとなった。

YP Chair から、コアグループについては、役員に加え、追加でアドバイザーという形でもいいかと思うとコメントがあり、Secretary からぜひ提案して欲しい、とコメントがあった。

・ Women in Engineering

(資料 6-3)

WIE Chair から説明があった。

5月21日に役員会を開催し、3月8日に開催した国際女性デーについての報告をオンラインにて実施。イベントの今後の予定としては、WIE2021を11月6日開催予定。エッセイコンテストは非開催。Engineer Spotlight は、第16回大学進学とジェンダー

ということで共催（後援）することとした。次回役員会は7月を予定。6月末にコーヒ
ーブレイクを予定。

9. その他

(資料 7)

・ SIGHT 報告

(資料 7-1)

Secretary から、説明があった。

SIGHT Tokyo のメーリングリスト作成と、第1回のミーティング日程を6月で調整
している。総会で質問の有った活動状況については、活発に動いている状況ではない。

Past Secretary から、SIGHT は2017年頃にできて2年間、青森への出張授業を目
玉として実施してきたが昨年はコロナで実施できなかった。出張授業に関しては、EA
的な活動でもあったので、今後 EA の活動との連携や分担などを視野に入れながら進
めるとよいと思う、とコメントがあった。

・ [参考] メール審議報告

(資料 7-2)

・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧

(資料 7-3)

以上